

研究課題	身に付けた英語力を活かし、より積極的に自己表現が出来る子どもの育成
副題	～英語での観光ガイドに挑戦～
キーワード	表現力 英語活用能力 キャリア教育 郷土学習
学校名	徳之島町立手々小学校
所在地	〒891-7421 鹿児島県大島郡徳之島町手々2975番地
ホームページ アドレス	http:// www5. synapse. ne. jp/ tetesyoutyuu

I 研究の背景

本校は、世界自然遺産登録が期待される鹿児島県徳之島北部にある全校児童生徒10名（小学生6名、中学生4名）の極小規模小中併設校である。

2年前に集落の有名スポットを紹介する子供観光ガイド活動をスタートさせ、現在までに島内外の観光客らのべ100名以上にガイドをおこなってきた。最近、マラソン合宿で来島した実業団の方々にガイドを招いてガイドを実施している。その様子は新聞やテレビにも度々紹介されている。また、去年は、全国規模の有名テレビ番組に2回も出演した。そのうち1回は、全員が東京に招待され、観光名所を巡りながらたくさんの芸能人に会おうという貴重な経験を味わうことができた。本校の児童は、素直で純朴であるがゆえ、萎縮してしまうのではないかと考えていたが、堂々と自己表現が出来ていた。それは、ガイド活動等で自己表現することになれていたからではないかと考えられる。この体験で、徳之島と東京の違いを肌で実感した子供たちの中には、外国人の多さに驚きつつ、英語の必要性を感じた子供もいた。

本校の特色ある活動の一つである子どもガイドは3年目となるが、ややマンネリ化している面もある。そこで、今までのガイドをステップアップしたいという子供たちからの意見も出るようになった。そんな中、徳之島を含む奄美大島・沖縄の一部が世界自然遺産に推薦された。登録後は観光客が増加すると予想される中、新しい観光客らにガイドをすることが予想される。そこで、英語による観光ガイドに挑戦できないかと考えた。

小学校の英語教育も大きく変化し、これからのグローバル化社会を生きていく子供たちには生きた英語力を身に付けさせたいという思いもあるからだ。しかし、限界集落にある本校の子供たちには、学習環境の工夫が必要である。その際、ICTを活用し、英語に多く触れる環境を作れば子供たちの英語力を向上させることができるのではないかと考えた。

さらに、本校は2年間の鹿児島県のキャリア教育研究指定を受けており、日々研究実践しているところである。子供観光ガイドのレベルアップは子供たちのキャリア意識形成の基礎作りにも結びつくと期待される。

II 研究の目的

- 2年間のガイドを振り返り、課題点を見つけ出し、お客様を喜ばせるだけでなく、自分たちもさらに楽しむためのガイドの在り方の研究。
- 山村留学生や特認校生が多い本校でメンバーや教職員が入れ替わっても、だれでもガイドが出来るように、指導計画並びにマニュアル作成の推進。

○ 英語による観光ガイドもしくは観光動画を作成するために必要なスキルの向上に関する研究。

上記を研究の目的として、ICT機器等を活用し、自分たちの住む徳之島について誇りを持ち、さらにその良さなどを積極的に表現できる力をつけ、これからの社会に必要な子供たちの資質能力を高めていく。

Ⅲ 研究の経過

1 過去2年間の子どもガイドの取り組み

H28 年度	ガイドに付いての知識を深め、自分たちの目線でガイドを作りあげる。	
7 月	気づく	- 実践校のガイドの様子を学ぶ。 - 地元のガイドによるエコツアーガイドを体験する。 - ガイドの概要を知る。
9 月 ～ 12 月	考える	- ガイドの計画（地図・コース）を立てる。 - 紹介するポイントの原稿を作成する。 - ポイントごとの役割分担をして、紹介の練習をする。 - 改善点や工夫（クイズ・動画）をまとめる。 - 中学生と職員を対象にリハーサルをする。 - 改善点を見つけコースや原稿を見直す。
1 月	試す ガイド①	- 一般エコツアーガイドを対象に子どもガイドを実施する。 - 参加者からの感想や助言をもらう。
2 月 3 月	振り返る	- 改めて手々地区についての考えや思いを話し合う。 - 次回ガイドへの改善点や工夫をまとめる。 - 世界自然遺産登録推進フォーラムでガイドを行う。
H29 年度	1 年目の経験を元に様々な参加者にガイドを実施し、助言を得る。	
5 月	ガイド②	- 新入生と転入職員を対象にガイドを実施する。 - 助言を活かしてガイドに取り入れる。
6 月	ガイド③	- トライアスロン参加選手を対象にガイドをする。 - トライアスロンでガイド参加者を応援し、交流を深める。
7 月	ガイド④	- テレビ番組の取材としてガイドを実施する。 - インタビューに答え、ガイドについての思いを述べる。
12 月	ガイド⑤	- 町内小学生と徳之島 PR 動画撮影隊を対象にガイドを実施する。 - 原稿に頼らないガイドについて挑戦する。 - 同年代の参加者への伝え以下について改善点を話し合う。
1 月	ガイド⑥	- 合宿中の実業団陸上選手を対象にガイドを実施する。 - 季節感を盛り込んだガイドについて検討する。
3 月	振り返る	- 他校の観光ガイドに参加する。 - 自分たちのガイドと比較し、改善点や新たな取り組みを考える。 - 次回のガイドへの改善点や工夫をまとめる。

子どもガイドは、毎回好評で参加者のアンケートも好意的なものばかりであった。子どもたちも、回を重ねるごとに上手になっていたが、徐々に工夫も熱意も見られなくなり、このままでは参加してくださる観光客に対して失礼にあたる状況に陥る危険性も出てきた。そこで、他校のガイドに参加させてもらい、自分たちのガイドの良さと課題を見つけ、今年度につなげることにした。

2 今年度のガイド・英語関連の取り組み

H30 年度	2 年目までの経験を活かし、コミュニケーションの向上やおもてなしの工夫に取り組む	
4 月	つかむ	・ オリエンテーション（経験者による新入生・転入生・山村留学生に対してガイドの概要の説明）
5 月	ガイド⑦	・ おもてなしの気持ちで事前にガイド場所を清掃する。 ・ 近隣校の中学生を対象にガイドを実施する。（1ヶ所のみ）
6 月	ガイド⑧	・ トライアスロン選手を対象にガイドを実施する。（海外生活経験者らの参加） ・ おもてなしの気持ちで手作り郷土菓子を作る。（お菓子の作り方を記録し、動画として残す。） ・ 小中合同英語授業の実施（入国手続きを体験する）
9 月	ガイド⑨	・ 明星大学僻地教育研究会の学生を対象にガイドを実施する。 ・ 大学生らと英語活動を行う。 ・ 地域のよさや少人数のガイドについての助言を活かす。
10 月	調べる	・ 観光動画作成に取りかかる。（しかし台風 24 号の上陸に伴い、建物の倒壊などにより進められず。）
12 月	ためす	・ ENGLISH COOKING SCHOOL（高学年のみ）
1 月	ガイド⑩	・ 合宿中の実業団陸上選手を対象にガイドを実施する。（韓国人アスリートも参加） ・ 記者の役割を設定し、ガイドを客観的に見直す。
2 月	振り返る	・ 研究公開
3 月	つくる	・ 英語による観光動画作成に取りかかる。（継続中）

今年度は、新しいメンバーが半分を占めたために、ガイド関連活動に時間を取るようになった。新しいメンバーは、人前で話すことになれていないために、ガイドスキルを習得するのに時間がかかったからである。そのため、英語関連の活動は、通常の授業を中心とし進めた。

IV 代表的な実践

1 ガイド関連

(1) 地域ガイドパンフレット作成・改良



写真① 地域の様子、ガイドマップ、地域行事の紹介などが紹介されたパンフレット
(子供たちがレイアウトを含めすべて考えた。また、ゆるキャラも考案した。)

(2) 実業団アスリート達への地域ガイド（平成 31 年 1 月 22 日）

2 時間で以下の観光スポットを紹介した。

表3 ガイドコース

観光スポット	主な活動
学校	自己紹介・地域に伝わる伝統行事の紹介・コース紹介など
殿地ソテツ	徳之島ソテツの発祥地であることの紹介
アジ墓	地域の英雄の墓 積み上げられた石のヒミツをクイズで紹介
手々海浜公園	ウミガメの産卵地であるため、ウミガメにちなんだクイズ
夕日スポット	徳之島最北端の地から見える夕日の紹介
掟大八目の力石	力石の紹介と重さ当てクイズ
学校のすべり台	特徴のあるすべり台の紹介とクイズ、記念撮影

ステップアップしたおもてなし

手作り郷土菓子・自家栽培で作ったおつけもの、サトウキビのふるまい、帰り際のお土産プレゼント、アーチを作り参加者の見送り



写真②おもてなしや見送りをする子供たち

(3) 観光動画作成

離れた位置にあるため、直接紹介することが難しい地域の名所の紹介動画作成



写真③ 作成した観光動画の一部

2 英語活動

(1) 小・中合同英語授業

ENGLISH COOKING SCHOOL

高学年が対象の ALL ENGLISH による調理実習。中学校が併設されているため、中学生、中学校の英語教師、ALT も加わり、マフィン作りを体験した。その他、入国手続きの体験、英語レクリエーション活動も行った。



写真④

ENGLISH COOKING SCHOOL

(2) 子ども新聞の英語コーナーを活用した授業、及び発音練習

日常的に使える会話のやりとりが掲載されており、通常の授業で活用した。また、子どもたちに自主的に学習してもらうために、掲示を行った。QRコードが付いており、発音が分からないときは、タブレットで読み込んで発音を確認していた。



(3) AI英会話ロボットの導入

児童が気楽に英会話ができるのではないかと考え、AI英会話ロボットを導入した。英会話を楽しむには、別途サービス加入が必要で、現在は付属の教材を活用し、単語や簡単な会話を覚えたり、確認テストに挑戦したりしている。



写真⑤

タブレットで発音を確認する

V 研究の成果

- 児童が積極的に活動する意欲を持ち、主体的に来訪者と関わろうと努力する姿が多く見られるようになった。
- 児童の自己肯定感が高まり、自信をつけてきた。
- 自己表現力の育成の場となり、初対面の相手とも気持ちよくコミュニケーションをとろうとする児童が増えてきた。
- これまで知らなかった地域の旧跡を巡ることにより、地域に対する愛着が深まり、誇りを持つ児童が増えた。
- 英語圏の観光客とふれ合う機会はなかったが、韓国語しか話せない参加者と意思疎通を図ろうとする姿が見られた。
- 日本語以外の多言語への興味関心を持つ児童が見られ、将来の夢も考え直す姿も見られた。
- 英語に初めて触れる児童が多かったが、簡単な質問なら即答出来るようになってきた。(時間、天候、体調から自分の趣味やその理由を説明する。)
-



写真⑥

地域の伝統文化を紹介する様子



写真⑦

韓国人アスリートと交流する様子

VI 今後の課題・展望

2年間取り組んでいる子ども観光ガイドをステップアップさせたいということで進めていた今回の研究は、思ったほどの成果を生み出すことができなかった。それは、見通しの甘さと研究体制がしっかりと出来ていなかったからである。

極小規模校なので、全学年で合同授業を行うことも多い。実際、子どもガイドの活動は、共通の時間設定をし、調査・準備などを全員で行っている。今年は、その中に英語によるガイドの準備を組み込もうとした。そのために、まずは英語力を高めることを考えた。しかし、今年度は新規メンバーが半分を占め、全員地域のことを知らない子供たちだったので、今までのガイドの説明や、地域の観光スポット調査に時間がかかった。そのため、十分に時間を設定出来なかった。また、初めて英語に触れる子供たちがほとんどで、まずは英語に興味を持たせることから始めなければならず、実態を考慮すると、個人にオンラインの英語サービスを活用させるには、かなり難易度が高かった。また、教師自身も英語に自信がないために、効果的な指導ができなかった。



写真⑧ 紹介された新聞記事

また、平成 30 年度は近隣の 3 つの小学校が取り組んでいる I C Tを活用した合同遠隔授業研究に加わることになったが、その中でパナソニック研究助成金を頂くことにもなった。I C T環境が十分に整備され、本実践も順調に進むと考えていたが、遠隔授業に使用する機材やタブレット端末の導入が決定しては先送りという状況が繰り返され、助成金を活用した機器購入の計画が立てられず、機器の購入が進まなかった。



写真⑨
研究公開の様子

さらに、キャリア教育の研究指定校として 2 年間の研究を年度末に公開することになっていた。年度初めは、それらの研究とうまく連携をとり進めていくことにしていたが、少ない職員数、2 学年分の教材研究、研究公開の研究推進で多忙を極めている中、新たな活動を組み込むことができなかった。



写真⑩
研究公開の参加者にガイドをして
見せた様子

そこで、今年の反省を活かし、今後（来年度）は、最初から、英語ガイドの実施をメインに活動を計画することにした。日本語での子どもガイドはある程度完成しているからである。さらに、完成できていない観光動画を来年度中には完成させ、本研究を最後成功させたい。

7. おわりに

今回の研究は、過疎・極小規模校に在籍する子供たちにグローバル社会に少しでも興味関心を持ってほしいと思い設定した。足並みそろえて研究をする難しさを痛感した。なぜ、財団が団体単位で募集をしているのかを、この一年を通して学ばせて頂いた。この経験を活かし、チーム意識を高め、将来の日本を担う子供たちを職員一同一致団結して育てていきたい。

8. 参考文献

文部科学省「小学校学習指導要領（平成 29 年度告示）解説 総合的な学習の時間編」

文部科学省「小学校学習指導要領（平成 29 年度告示）領解説 外国語活動・外国語編」